

## 第11回カトリック召命チーム会議事録

日時：2010年11月13日（土）16:00-18:00

場所：イエズス会管区長館（岐部ホール）307号室

はじめの祈り

### 1. イエズス会の召命戦略ーサリ師

\*イエズス会召命チーム：司祭、ブラザー、神学生の3名によって営まれ、調整役的存在である。

#### \*活動①

- ・毎週木曜日、上智大学カトリックセンターにて、午後7時よりミサ、その後食事会（希望者）
- ・対象：誰でも参加可能・現在7～10人の集いとなっている。
- ・召命とは、全ての人に向けられている・
  - ・未洗礼者への招き、信徒の結婚召命、修道者・司祭の召命

#### \*活動②「召命の集い」：毎月の集い

- ・信者のみ参加可能・イエズス会の召命、奉献者の召命を考えるため
- ・一泊二日、5～6名参加、案内状を出して参加して貰う
- ・目的：イエズス会の紹介と召命の識別
- ・方法：イエズス会の司祭に講話をして貰う

#### \*活動③「サマーキャンプ」：年に一度

- ・上石神井で二泊三日の集いを行う。カトリック新聞で広告を出す。現在平均8名～10名
- ・日頃召命について考えていないので、岩下神父の留学当時・

#### \*活動④「若者の集まり」：Life orientation program

- ・イエズス会経営の4つの声をかけて、各校から8名ずつ、合計32名・各高校が参加者を選ぶ。
- ・二年に一度の割合で行われる。休暇中に行われる。
- ・目的：①4つの高校の生との交わり、②自分に気づく、③今の社会を考える、超越への気づき
- ・未洗礼者を含む。費用は管区からの援助によって。
- ・場所は東京、神戸、広島、福岡の高校でなされる。部屋に寝泊まりする。

#### \*その他

- ・インターネット、メールを使って召命の呼びかけを行う。
- ・召命の育成は、イエズス会員のためだけでなく、まず召命そのものを育て、それぞれに合った修道会、教区などに送り出している。単にイエズス会の為だけではない。
- ・召命の育成の難しさ：
  - ・召命の集いに参加する人々・しばしば精神的に病んでいる。また年齢がオーバーしている。
  - ・病んだ人が集いに参加しても受け入れる。それは彼らも精一杯生きようとしているから。
- ・雑誌『仕えるために』を発行・叙階式がある場合、新司祭の紹介と新司祭への期待を述べている。
- ・召命担当者のみが召命を考えるのではなく、共同体のメンバー全体で召命を考えていく。

#### \*質疑応答

- ・シエガレ師：パリミッション会では召命のための特別の集いをしないが、それでも神学生が集まっている。それは司祭が若者と行動を共にし、そこから召命が出ている。
- ・サレ師：学生との関わりを持つことは重要。ワールドユースデイにどう協力出来るも考えている。
- ・古里師：若者が種々の教会活動をして、そこから召命に入る人もいる。ただ来る人はしばしば教会の基本的教え、カテキズムの知識がない場合がある。
- ・サレ師：日本の若者が教会の基本的教えを知らないのは当然である。それは受洗後、間もなかったり、洗礼の準備が短かったり、十分に学びの時間を取っていない場合が多いからである。それでも召命の数は多い。召命を感じている人に、ながく関わりながら、彼らの教会の基本的知識を深めるように教育するべきである。
- ・古里師：常に敬虔な家族からのみ、召命があるわけではない。召命は予想を超えた所に生まれる。

- ・池長大司教：大阪大司教区で「青年たちの集い」行った。大司教区内から100名近い若者が集まった。彼ら自身に未来の教会の姿を描かせた。かれらが描いた理想的教会とは
  - ① 人間的深い交わりと喜び感じる教会
  - ② 外国人と共存、協働できる教会
  - ③ 心を込めた美しい典礼を行う教会

池長大司教は「あなた達が未来の教会を造るのです」と激励した。そして青年たちによる教会再生の組織を作るように助言している。  
 このような集いから司祭・修道者の召命が生まれてくるだろう。  
 青年たちの集まりの拠点として、「召命の家」を造り、現在一人の韓国人と一人のベトナム人が住んでいる。
- ・サレ師：現在の小教区で果たして、若者が集まってくるだろうか。小教区には若者は少ない。従って家庭での信仰教育が重要ではないか。
- ・キエサ師：若者が集まるための拠点が重要ではないか。
- ・池長大司教：若者が集まれる拠点を造ることは重要。また移動する拠点も必要。つまり年の一度の集まりを場所を変えて行うことも重要である。

## 2. ホームページに関して

### 3. この会の理念と目的を確認

- ① 日本カトリック教会における司祭、修道者（女）、信徒の召命促進
- ② 教会が直面している種々の問題を明確にし、その解決の糸口を教会全体で考える。
- ③ 日本カトリック教会全体で「召命の促進」を考えるための情報ネットワーク構築。
- ④ 召命黙想会、研修会、勉強会などの企画、開催、支援
- ⑤ シンポジウム(講演・公開討論)などを企画、開催・直面している諸問題を共に考える。

### 4. 今後の活動に関して

- ①メンバーの拡充
- ②「つながる」「つなげる」という目標達成のための企画案
  - ⒶHPへのリンク・長崎教区 OK、イエズス会 OK、サレジオンシスターズ OK
  - Ⓑ会合招聘
    - \* 召命担当者・イエズス会 11/13 サレ師の発表は上記通り  
御受難会 12/11：次回は中村師に依頼する。
    - \* 青少年の信仰育成について・郡山司教・メールにて打診中  
「青少年の信仰養成が点から線へと展開するために」
  - Ⓒ召命担当者会議：・来年度中に第一回を行いたい。  
この会のあり方を共に考えながら検討する。
  - Ⓓシニア信徒の信徒としての召命を考える黙想会・今後検討する。
  - Ⓔ第二回青年の語らいの会・真正会館の若者たちから、反対意見がある。
    - ・たぶん、しばしば青年たち対象の集いがあるので、参加協力するのに疲れているのではないと思われる。
    - ・この会による「青年の集い」の目的は、青年たちの意見を聞くためのものであった。「青年たちの召命」を促す黙想会とは違ってははず。
    - ・今後は青年たちの動きを見ながら、彼らがなす「集い」に協力する形で進めていこう。「集まり」に疲労しているとすれば、残念なことだから。

### 4. 教会の刷新を目指して

\*これまで以下のテーマで話し合い、その結果をホームページに載せている。

- ・「教会が直面している問題」
- ・「教会共同体のあり方について」
- ・「信徒と教会」

\*今回のテーマ:「司祭」:どのような司祭であって欲しいか

- ・司祭の人間性
- ・自分の非(誤り)を認め得るほどに成熟した司祭
- ・愛と正義
- ・信仰養成とカテキズム
- ・司祭と典礼
- ・信徒と共にあゆむ司祭
- ・信徒と協働し信徒を生かす司祭

\*今後の話し合いのテーマ

- ・未洗礼者へのアプローチ
- ・青年たちにとっての教会は何・ニューエイジ(スピリチュアルブーム)の中で・
- ・信仰教育の問題点と限界
- ・信徒向けの要理教育の必要性
- ・教会を離れた人たちへのアプローチ